

自由診療

健康診断は随時行っています。ご希望の方はお気軽にお問合わせください

企業健診も対応しております。お電話にてご相談ください。

- 1) 基本項目（診察＋書類作成）・・・2610 円
- 2) 個人健診一般（レントゲン、心電図、血液、尿検査、聴力）
・・・11000 円
- 3) オプション （1）の基本項目に加えて下記を選択した場合

1	尿検査	260 円
2	血液検査（生化学・貧血）	4330 円
3	血液検査（上記＋HbA1c）	4820 円
4	胸部 X 線	2100 円
5	心電図	1300 円
6	聴力検査（オーディオ）	400 円
7	腹部エコー	5300 円
8	腫瘍マーカー	CEA 990 円 CA19-9 1210 円 PSA 1210 円

9	便ヒトヘモグロビン（2回）	1080円
10	骨塩定量（上腕）	1400円
11	CAVI（血管年齢測定）	1000円

※健診項目によりですがお渡しまでに数日かかりますので余裕を持った予約をお願いします。
 ※受診当日は健診項目の分かる書類を必ずお持ち下さい。

4) その他の治療

①薄毛治療：当院では男性ホルモン型脱毛症（男性型脱毛症：AGA）に対し、内服治療を行っています。男性型脱毛症とは、成人男性特有の進行性の脱毛症で、生え際や頭頂部の毛髪が薄くなったりするのが特徴で、遺伝や男性ホルモンの影響が主な原因だと言われていています。

特に20代以降の男性に多く見られ、日本人男性の3人に1人がAGAだと言われています。AGAは治療せずに放置すると進行していきますので、早めの治療が大切です。フィナステリドは、テストステロンと酵素の結合を防止して、テストステロンより作用の強いジヒドロテストステロン(DHT)になることを抑制することで、主に脱毛を予防し、次第に毛周期を整えることで育毛の効果があります。

1回の受診で1～2か月分のフィナステリドを院内処方します。(1ヶ月分 約6500円)

なお国内では外用としてミノキシジル（1%と5%）などが販売されており、フィナス

テリド内服との併用が有効です。

② ED 治療：勃起障害（ED）とは、性交を行うのに十分な勃起を達成または持続できないことです。ED は一般に精神障害、神経系の病気、血管の病気、けが、または一部の薬の副作用や手術の合併症に起因します。最もよくみられる具体的な原因としては以下のものがあります。

- 陰茎に通じる動脈を侵す動脈の硬化（動脈硬化）
- [糖尿病](#)
- [前立腺の手術](#)の合併症
- 特定の薬、例えば高血圧または[前立腺肥大症](#)の治療に用いられる薬、うつ病の治療に用いられるものなどの中枢神経系に作用する薬

当院では複雑な ED に対する検査、治療は行っていませんが、**経口のホスホジエステラーゼ阻害薬**（シルデナフィル）の院外処方を行っています。この薬は陰茎への血流量を増やすことで効果を発現します。空腹時、性交の少なくとも1時間前に服用してください。硝酸薬（ほとんどの場合狭心症を治療するためのニトログリセリン）を服用している男性は、併用すると危険なレベルまで血圧が低下する可能性があるため、この薬は使用できません。ホスホジエステラーゼ阻害薬のその他の一過性の副作用には、紅潮、視覚異常（色覚異常など）、頭痛などがあります。

当院ではバイアグラ（50）を院外処方します。（診察料+処方せん料 約1500円）
薬剤費は、薬局にて別途お支払いください。

自費診療のワクチンの料金表

ワクチン名	料金（円）	打ち方・注意事項
肺炎球菌ワクチン（23 価）	8800	5 年に 1 回
肺炎球菌ワクチン（15 価）	9000	大人は 1 回のみ
インフルエンザ	3 歳以上 4000 3 歳未満 2000	3 歳未満は 2 週間後にもう 1 回
帯状疱疹（弱毒生ワクチン）	7700	5 年後の追加接種をお勧めします。
帯状疱疹（不活化ワクチン）	22000×2 回	2 か月後にもう一回注射。 （ずれても 6 か月以内）
麻疹・風疹混合ワクチン	12100	
A 型肝炎	7700×2～ 3 回	流行地への旅行前には 2 週間の間隔をあけて 2 回を推奨。3 回打ちがベスト
B 型肝炎	5500×3 回	3 回打ち（1 回目から 1 か月おき 2 回目接種。その後 5 か月開けて 3 回目）
おたふくかぜ	7700×2 回	2 回打ち推奨（1 か月開けて接種）接種後 2 か月は避妊すること。
子宮頸がんワクチン（4 価）	16500×3 回	3 回打ち（初回から 2 か月開けて 2 回目接種。その後 4 か月後に 3 回目）
子宮頸がんワクチン（9 価）	25000×3 回	同上
RS ワクチン	25000	
破傷風	3300	1 か月後に 2 回目、その半年から 1 年後に 3 回目を接種します
新型コロナワクチン	16500	1 年に 1 回

※当院では小児定期接種から大人の任意接種までの各種予防接種を予約制にて行っております。（インフルエンザワクチン・コロナワクチンは予約不要）

小児定期接種をご希望の方は当院ホームページから WEB 予約が出来ますのでそちらをご利用ください。その他任意接種についてはお電話にてお問合せ下さい。

※ワクチンの入荷状況により接種が出来ない場合もございますのでご了承ください。

带状疱疹ワクチンについて

1) 带状疱疹の有病率・年齢別性別発生率について

带状疱疹患者は増加傾向にあります。带状疱疹は水ぼうそうのウイルスと同じ、水痘・带状疱疹ウイルス（VZV：varicella zoster virus）が再び活性化することにより起こります。日本では6~7人に1人がかかるものと推定されています。50歳を過ぎると発症が増え始め、80歳までに約3人に1人が発症するとも言われています。一度罹患しても再発する人が数%いることもわかっています。

带状疱疹後神経痛が高齢者ほど起きやすく、数か月から数年にわたって痛みが続くことがあります。痛みには個人差がありますが、電気が走ったような痛みや風が吹くだけで激痛が走ったりしてかなりつらいという方もいらっしゃいます。また耳の周りに带状疱疹ができた際、聴力低下・めまい・顔面神経麻痺がおきたり（ハント症候群）、目の周りにできた際は視力低下、緑内障、眼球壊死から失明（眼部带状疱疹）など恐ろしいものもあり、すぐに専門医への受診が必要となります。これらを守る意味でも予防接種は重要と思われます。

2) 带状疱疹のワクチンは2種類あります。

現在带状疱疹の予防接種は弱毒生ワクチン（従来の水痘ワクチン）と新たに不活化ワクチンと2種類あります。前者は1回で済み7700円と値段が安いのですが、有効率は5年たつと50%以下に低下してきます。5年後の追加をお勧めしています。それに対し、新しい不活化ワクチンは1本22000円高く、しかも2回打つ必要がありますが、効果は10年でも70%以上と持続します。欧米では後者を選択する人が圧倒的に多いようですが、我が国ではまちまちの状況です。

带状疱疹のワクチンは2種類あります。

ワクチンの種類	弱毒生ワクチン	不活化ワクチン
接種回数	1回（皮下）	2回（筋注） 2（～6）か月間隔
発症予防効果※	1年目 38～68% 6年目 17～33%	1年目 97.7% 6年目 88.5%
带状疱疹後神経痛 予防効果※	1年目 70% 6年目 52%	10年でも73%発症予防なのでかなり高い
副反応	局所反応・発熱が1～3%	筋肉痛・頭痛・倦怠感など30～40%
費用	7700円	22000円×2
注射できない方	① 発熱や急性疾患にり患している方 ② 本剤の成分に強いアレルギー症状のある方 ③ 妊娠している方 ④ 免疫抑制剤（ステロイドなど）使用中のかた。 ⑤ 明らかに免疫が低下している方	
まとめ	費用は安いですが、発症予防の効果はやや低い。神経痛の予防効果は50%くらい。副反応は軽い。	費用は高いが、効果は10年でも続く。副反応はやや多いが、重篤なものではない。

大人の定期接種の肺炎球菌ワクチン（65歳から）について

大人の定期接種の肺炎球菌ワクチンには**23価ワクチン**があり、1回は補助金が出ですので3000円で接種できます。有効期間が5年とされているので、5年経過した人は自費で追加接種される方も多いと思います。小児で使用している**15価ワクチン**は大人にも使用

可能となっていますが筋肉注射である点、**23価ワクチン**を打った人には1年以上の間隔をあけて使用する必要がある点に注意が必要です。

肺炎球菌ワクチンの比較

	肺炎球菌ワクチン23価	肺炎球菌ワクチン15価
血清型	肺炎球菌15価 +2,8,9N,10A,11A,12F,15B,17F、 20、 ただし6Aはなし	1,3,4,5, 6A ,6B,7F,9V,14,18C、 19A,19F、、22F、23F 33F
免疫力	B細胞のみ活性	B細胞T細胞とも活性
年齢	定期は65歳以上 2歳以上で免疫が低下している人	2か月～6歳未満 65歳以上または肺炎球菌による疾患に罹患するリスクのある人
期間・回数	5年あける	小児は規定通り 成人は1回（追加が必要かまだ結論が出ていない）
皮下・筋注	小児：皮下または筋注 成人：皮下または筋注	小児：皮下または筋注 成人：筋注
価格	定期接種：3000円 任意は8800円	小児は無料 成人は9000円

肺炎球菌ワクチンの追加にはどのような方法があるの？

- 1) 23価ワクチン定期 → 1年以上あけて 15価ワクチン（任意）
- 2) 15価ワクチン（任意） → 1～4年以内 23価ワクチン（定期または任意）
- 3) 23価ワクチン定期 → 5年以上 23価ワクチン（任意）

大人のRSウイルスワクチンについて

RSウイルス（respiratory syncytial virus、RSV）は、主に乳幼児に多く見られる急性呼吸器感染症の原因として有名なウイルスです。生後1歳までに半数以上、2歳までにほぼ100%の子供が少なくとも1度は感染するとされています。大人でも感染しますが、通常は鼻水、のどの痛みなど上気道症状にとどまり重症化は稀です。しかし高齢となり（60歳以上）で基礎疾患（喘息、COPD、うっ血性心不全、冠動脈疾患、糖尿病）があると肺炎や、基礎疾患の悪化から入院が必要となるケースがあります。

グラクソスミスクラインのRSウイルス.jp (<https://rsvirus.jp/>) に我が国でのRS患者の推計の患者数が以下に示されていますが、意外と患者数は多いようです。

60歳以上の成人の場合：

～約70万件が発症

～約63,000件が入院

～約4,500例が死亡



入院・死亡に至ることも
あります

基礎疾患*のある人は、その基礎疾患*のない人に比べて、RSウイルス感染症の入院率比が高いことが報告されています⁴⁾。(米国成人のデータ)

喘息のある方	約2.0～3.6倍
冠動脈疾患のある方	約3.7～7.0倍
糖尿病のある方	約2.4～11.4倍
COPDのある方	約3.2～13.4倍
うっ血性心不全のある方	約4.0～33.2倍

そこで60歳以上で基礎疾患のある方のためにRSワクチンは開発されました。

このワクチンは不活化ワクチンですが、抗原RSVPreF3とアジュバントとから構成されており、液性免疫だけでなく、細胞性免疫まで誘導することが期待できます。初回シーズンの有効性は82%、2シーズンの有効性67%です。

主な副反応（10%以上）は疼痛、頭痛、筋肉痛、関節痛、疲労でした。

子宮頸がんワクチンについて

ワクチン対象



HPVワクチンの定期接種（公費）の対象者は、小学校6年～高校1年相当の女の子です。また、今年4月の積極的勧奨の再開までに接種の機会を逃してしまった対象者にも改めて接種の機会を設けられます（詳しくは、パート2参照）。

イラスト/アサクラカヨコ

子宮頸がんの罹患者数

約 1.1 万人 / 年

日本では毎年約1.1万人の女性が子宮頸がんになっています。子宮頸がんは、20歳代から増え始め、若い世代の女性のがんのなかで多くを占めています。

厚生労働省ホームページより

https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou_kouhou/kouhou_shuppan/magazine/202205_00001.html

子宮頸がんのワクチンには、最も子宮頸がんの原因となる HPV 16, 18 型に対する 2 価ワクチン、それに尖圭コンジローマの原因ウイルスの 6, 11 型もカバーできるようにした 4 価ワクチン、さらに子宮頸がんの原因ウイルスとなる 31, 33, 45, 52, 58 型もカバーできるように開発された 9 価ワクチンがあります。

	2 価ワクチン	4 価ワクチン	9 価ワクチン
薬品名	組換え沈降 2 価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン（イラクサギンウワバ由来）	組換え沈降 4 価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン（酵母由来）	組換え沈降 9 価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン（酵母由来）
国際誕生	2009 年 10 月	2006 年 6 月	2014 年 12 月
国内発売	2009 年 12 月	2011 年 8 月	2021 年 2 月
予防する HPV の数	2 種類	4 種類	9 種類
子宮頸がん（型）共通	16, 18(子宮頸がんの 60% をカバー)		
子宮頸がん（型）追加			31, 33, 45, 52, 58 (+28% をカバー)
尖圭コンジローマ（型）		6, 11 (ワクチンの予防効果 80~95%)	

各ワクチンの打ち方の違い



ワクチン接種がずれたときの対応

2価ワクチンでは1か月以上の間隔をおき2回接種後、1回目から5か月以上かつ2回目から2か月半以上あけて3回目を接種

4価ワクチンや9価ワクチンは1回目の接種から1か月以上開け、2回目の接種から3か月以上開ければ接種可能です。

9価ワクチンを15歳未満で打つ場合6か月開けなくてはなりませんが、少なくとも5か月以上開けて打つ必要があります。5か月未満で打った場合、3回目が必要とされています。